

看護のアジェンダ

井部俊子
株式会社井部看護管理研究所
聖路加国際大学名誉教授

看護・医療界の「いま」を見つめ直し、読み解き、未来に向けたアジェンダ(検討課題)を提示します。

〈第225回〉

なぜ「させていただく」のか

看護管理者研修で伝える 2つの禁句

私は、管理とはどのような言葉をどのように使うかが決め手であると考えている。

看護管理者の研修では、始めに「禁句」を2つ伝える。1つ目は「させていただく」であり、2つ目は「(うちの)子」である。「私は教育師長をさせていただいています」とか「研修に参加させていただきました」とか、「今年の4月から看護部長を拝命させていただいています」とか、耳をこらすと結構な頻度である。さらに、「今日、受講している子たちはよくやっている」とか、「私のところの子はおとなしい」とか、使う。すると私の琴線が反応する。「させていただく」は弱いリーダーをイメージし、「子」は同僚たちを庇護の対象としてみている、と私は解釈するのでイエローカードを出すのである。

看護管理者の研修のたびに「させていただく」が浮上り、モンモンとしていたところ、私の意図を察してくれたような、私を諭してくれるような書籍が刊行された(正確に言えば2022年12月23日に刊行されていた)。題して『「させていただく」大研究』(椎名美智・滝浦真人編、くろしお出版)である。表紙をめくるとこんな文字が飛び込んで来る。「なぜ皆、こんなにも『させていだいて』いるのか?」と。

授受動詞には「やる・あげる・さしあげる」「もらう・いただく」「くれる・くださる」という3系列7動詞があり、本動詞としてだけでなく、他の動詞の後ろにつく補助動詞として使われている。この補助動詞として使われている授受動詞「させていただく」に焦点を当て、さまざまな分野の言語学者が各自の専門の視点から分析した論考を集めた論文集である。

この「させていただく」論文集は、コロナ禍をきっかけに生まれたものであると、あとがきに紹介される。それまで「ベネファクティブ(註)とポライトネス研究集会」を開いていたが、コロナ禍で研究集会が開催できなくなり、この論文集の発刊をもって発展的解散の形となったという。

批判されるべき日本語は なぜ生き残ったのか

では、「させていただく」に関連して、私の興味を引いた論考をみていきたい。

多くの日本語話者は、成人して社会生活を行うなかで、尊敬・謙譲・丁寧から成る敬語体系を身につける。ところが、現実の日本語の敬語体系は人々が思っているほど整ったものではなく、敬語で表現したいのに言葉が用意されていないという局面がしばしば出てくる。「着る」「死ぬ」「寝る」といった基本的な動詞が謙譲語にできない。このことは敬語の使い勝手を著しく悪くしており、日本語の敬語体系の欠陥と言うしかない。

この欠陥を補う役割を果たすのが、助動詞「させていただく」にはかならない。「させていただく」は、動詞をほとんど機械的に謙譲語にする助動詞であり、自分の行為を表す動詞の大半に使うことができる。

「させていただく」は何十年にもわたって批判されるべき日本語とされてきた。その一方で、人々はどうしてもこの助動詞を手放せなかった。それは動詞を謙譲語にできないとき、この助動詞を使えば簡単に解決できるからである。「させていただく」を使うことで得られる利便性は、それを使うことで批判されるかもしれないリスクを補って余りある。「させていただく」は、実に敬語体系の救世主だったのである。「させていただけます」が広まるきっかけになったのは、宮沢りえが

第27回日本看護管理学会学術集会開催

第27回日本看護管理学会学術集会が、2023年8月25～26日に別府千恵集会長(北里大病院:右写真)のもと、東京国際フォーラム(東京都千代田区)にて開催された。「混沌を解く——看護は何のために存在するかを問う」がテーマに掲げられ、全国から参加した多くの看護管理者らが活発な議論を交わした。集会後のオンデマンド配信は2023年9月13日～25日の期間で提供された。



●写真 学術集会長を務めた別府千恵氏

◆会場での議論を通じて看護の輪郭を探る

学術集会長講演に立った別府氏は、高齢化、医療費抑制の要請、COVID-19感染拡大等による業務量の増加や、テクノロジーの進化を含む社会の変動・流動化といった種々の要因により現在の看護を取り巻く状況が複雑で混沌としていることを概観。そうした現状を解くには看護のレゾンデートル(存在意義)を問うしかないと言った。2日間のプログラムは「看護とは何か」との問いを主眼に組まれ、基調講演「時代からの問い——私たちが向かうべき方向:WHO Global Strategic Direction for Nursing and Midwifery 2021-2025」、シンポジウム1「社会は看護に何を期待するか——看護を長年支える団体・企業から」、特別講演「看護における『療養上の世話』とは何か」、パネルディスカッション3「看護と業務の混沌を解く——看護師の業務は何によって看護となるのか」等、看護の輪郭を改めて探る多くの演目が催された。氏は、参加者各人がプログラムに参加し、思い思いに語り合うことで何らかの示唆を持ち帰ってほしいと、積極的な議論への参加を呼び掛けた。

1992年に貴花田関(当時)との婚約会見で「結婚させていただきます」と言ったことがきっかけという説もある。(酒井順子、朝日新聞2002年1月28日付)。

『「させていただく」』はなぜ一人勝ちしたか?という第6章をみてみよう。歴史語用論的アプローチで探ると、自分の行為について“あなたのために・あなたとの関連で・あなたを意識しつつ”丁寧に言うためのさまざまな表現(「お～します」「お～いたします」「～てさしあげます」「～させていただきます」)が使いつらくなり、「～させていただきます」へと流れ込んできている。「～させていただきます」からの交代もさることながら、特にヤル系動詞の凋落ぶりは凄まじく、「～させていただきます」のひとり勝ちとも言えそうな勢力関係の変化が明らかになった。

「させていただく」の後ろの形が「させていただきます」の言い切り形に収斂してきており、定型化している現象から、「させていただく」は話し手主語で相手に触れないので近接化は免れているが、逆に自己尊大化を起す方向に敬意漸減が進むのかもしれない。「させていだいてもくよろしい/よろしかった)でしょうか」といった許可願いの高い丁寧語が付加された形など

は、「させていただく」の尊大化を軽減しようとする補償的な変化とみることができると。

その他、「させていただく」には地域差があることや、「させていただく」文は関西から東京に「種」としてもたらされて東京で大きく育ったものではないかという結論である。

「させていただく」は丁寧語としての新しい機能を担っており、与益者を追跡することはできない(というところは、「させていただく」話者に「誰にさせてもらっているのですか」という私の質問は、野暮な質問ということになる)。

*

以上、この原稿を書くために格闘した「させていただく」研究は、言語学者たちの緻密な研究論文に挑む数週間であり、マネジメントにおける言葉を吟味する夏となった。

註: benefactive: bene(良く)と factive(作られたもののように)を組み合わせたことばであり、語の意味としては恩恵表現に近い。

医学書院のセミナー <https://www.igaku-shoin.co.jp/seminar>

FIREDIPPER® for OSCE

効率的なOSCE実施をサポート

OSCE(Objective Structured Clinical Examination)実施支援システムは、各ステーションで行われる試験スケジュールの予約、採点を映像と共に管理しより効率的なOSCEの実施を可能とします。

OSCE実施中の映像は、遠隔からでも、ライブ視聴はもちろん、試験実施後の録画映像までも視聴することが可能です。

業務効率化をサポート

紙ではなく、タブレット端末にて「OSCE実施支援システム評価ツール」を利用することで、採点結果集計・入力などの煩雑な紙管理から解放されます。評価結果は即座に本システムに反映され、全ての学生の評価内容や平均点などが一括して管理されます。

試験スケジュールに合わせて、ネットワークカメラによる自動録画が行われ、ハンディカムによる録画などの手間からも解放されます。

試験スケジュールの予約管理から、評価・採点までを映像と共に管理

医療教育機関向けOSCE実施支援システム



- 学生・評価者 管理機能
学生・評価者情報はCSVファイルから一括インポート可能。年度毎の入力作業はワンストップで完了できます。
- スケジュール 管理機能
試験スケジュールに合わせて自動録画。当日の急なスケジュール変更にも対応できます。
- ライブ映像視聴 機能
管理ツールから試験の進行状況をリアルタイム映像で確認。試験当日のスタッフの負担を軽減します。
- 録画映像視聴 機能
録画映像と評価結果を連携してシステム内に保存。録画映像を振り返り学習に役立てることも可能です。
- 試験進行ステータス確認 機能
評価用端末の接続状況、試験進行状況を一覧表示。端末トラブルなどにも迅速に対応できます。
- 評価・採点 機能
タブレット端末を利用して、採点内容は随時システム内に保存されます。採点用紙の回収・内容の手入力作業から解放されます。

DX対策
国公立大学
採用実績多数



日本テクノ・ラボ株式会社 <www.ntl.co.jp>

〒220-6211 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-5
クインズタワー

TEL: 045-263-8546 FAX: 045-253-8549
E-Mail: sales@ntl.co.jp